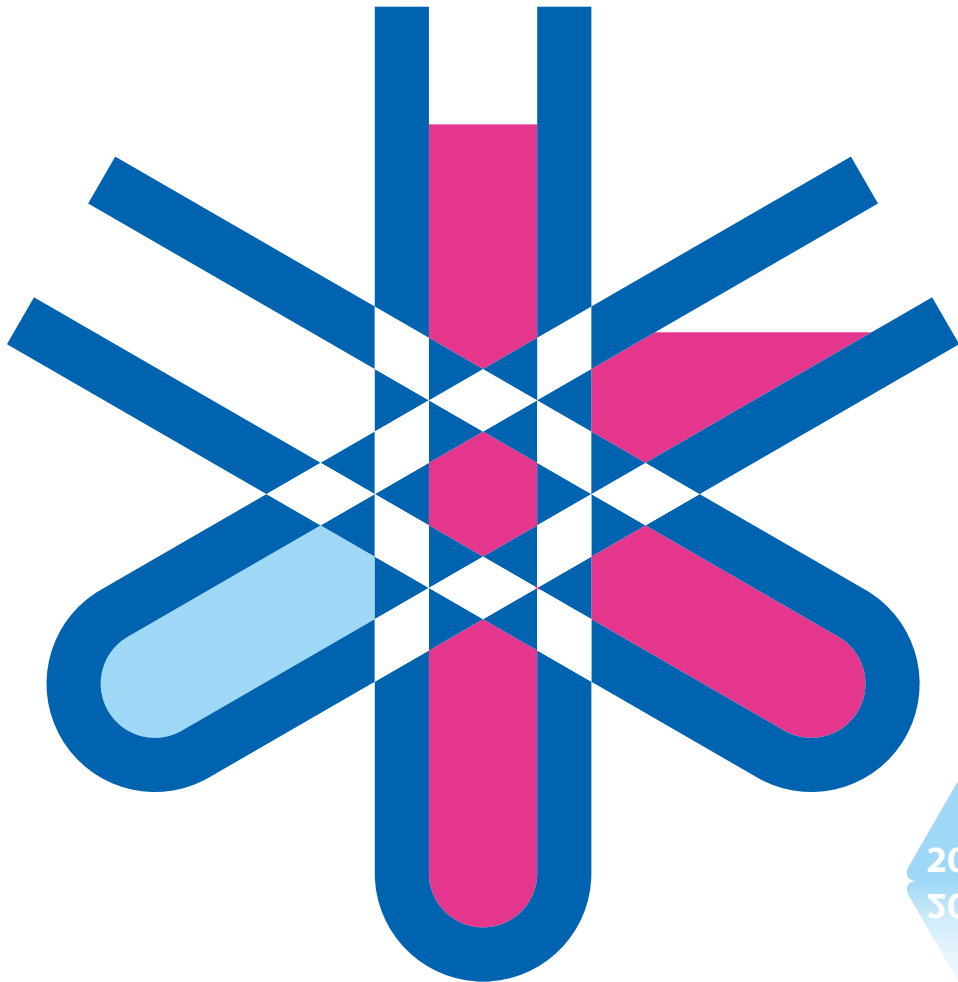


横查情報月報



2025
5052

3
3

横浜市衛生研究所

令和7年3月号 目次

【検査結果】

アレルギー物質を含む食品検査（令和6年度）	1
器具及び容器包装の規格試験の検査結果（令和6年度）	3
農産物の残留農薬検査結果（令和6年12月～令和7年2月）	5

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年2月）	7
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和7年2月）	8
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

アレルギー物質を含む食品検査（令和6年度）

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、症例数が多いものや重篤度の高いもの8品目（卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに、くるみ）が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入（コンタミネーション）等により、食物アレルギーのある人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品や特定原材料除去食の検査を行っています。

令和6年度に、医療局食品専門監視班が市内の食品製造施設等から収去した食品59検体並びに各区福祉保健センターが市内の保育所及び小学校から収去した特定原材料除去食78検体、合計137検体について、卵、乳、小麦、くるみの検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

市内の食品製造施設等から収去した原材料に卵を使用していないとされる食品10検体（菓子類10検体）並びに市内の保育所、小学校及び仕出し業者から収去した卵除去食等37検体（弁当・そうざい類35検体、菓子類2検体）、合計47検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性（10ppm未満）でした（表1）。

表1 卵の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類（シチュー、親子煮、かきたま汁等）	35	0	-	-
菓子類（クッキー、月餅、あんぱん等）	12	0	-	-

2 乳の検査

市内の食品製造施設等から収去した原材料に乳を使用していないとされる食品13検体（菓子類13検体）並びに市内の保育所及び小学校から収去した乳除去食等22検体（弁当・そうざい類20検体、菓子類2検体）、合計35検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、全て陰性（10ppm未満）でした（表2）。

表2 乳の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類（シチュー、カレー、トマト煮等）	20	0	-	-
菓子類（ケーキ、蒸しパン、月餅等）	15	0	-	-

3 小麦の検査

市内の保育所及び小学校から収去した小麦除去食等19検体(弁当・そうざい類18検体、菓子類1検体)について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類(グルタン、ギョーザ、カレー等)	18	0	-	-
菓子類(クッキー、ケーキ)	1	0	-	-

4 くるみの検査

市内の食品製造施設等から収去した原材料にくるみを使用していないとされる食品36検体(菓子類36検体)について、くるみの検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、35検体は陰性(10ppm未満)で、1検体は陽性でした(表4)。陽性となった検体(クッキー)は、リアルタイムPCR法による確認検査でも陽性となりました。この結果を受けて、医療局専門監視班が製造者に指導を行いました。

表4 くるみの検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
菓子類(クッキー、月餅、最中等)	36	1	1	1

「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウエスタンブロット法とPCR法などがあります。「卵、乳」については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウエスタンブロット法を用い、「小麦、そば、落花生、えび、かに、くるみ」については、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。

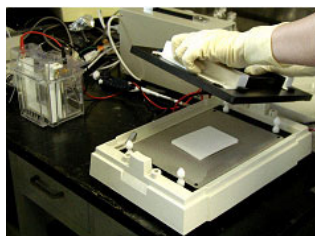
スクリーニング検査



ELISA法

(Enzyme Linked Immuno Sorbent Assay
酵素免疫測定法)

確認検査



ウエスタンブロット法
(卵、乳)



PCR法
(小麦、そば、落花生、
えび、かに、くるみ)

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

器具及び容器包装の規格試験の検査結果（令和6年度）

食器や調理器具、包装材などは、食品と直接接触して使用されることから、一部が剥離又は化学物質が溶出して食品が汚染される可能性があります。そのため食品に接触する器具及び容器包装については食品衛生法で規格が設定されており、この規格に適合している必要があります。

令和6年度に医療局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが市内で収去した合成樹脂製の容器包装等25検体について、器具及び容器包装の規格試験を行いました(表1)。

検査の結果、すべての検体が規格に適合していました。

表1 器具及び容器包装の規格試験の検体数と項目数(令和6年度)

材質	検体	検体数	検査項目数	検査項目							
				一般		材質試験		溶出試験			
				着色料	カドミウム	鉛	重金属	過マンガン酸カリウム消費量	アンチモン	ゲルマニウム	蒸発残留物
ポリエチレン樹脂	フリーザーバッグ、クリームしぼり袋等	7	42	7	7	7	7	7			7
ポリプロピレン樹脂	ストロー、アイストレー、まな板、プラカップ等	13	78	13	13	13	13	13			13
ポリエチレン及びポリプロピレン樹脂	まな板シート	1	6	1	1	1	1	1			1
ポリエチレンテレフタレート樹脂	クリアカップ	4	32	4	4	4	4	4	4	4	4
合計		25	158	25	25	25	25	25	4	4	25

【規格について】

器具及び容器包装又はこれらの原材料は、許可された着色料以外が溶出しないように規定されています(原材料一般の規格)。また、材質・使用用途別に規格が設定されており、材質試験と溶出試験を実施して評価します。材質試験は検体中に含まれている化学物質、溶出試験は検体から溶け出す化学物質を測定します。参考に、今回検査した材質の規格を示しました(表2)。

表 2 器具若しくは容器包装又はこれらの原材料の一般及び材質別規格

種類	項目		規格
一般	着色料		食品衛生法施行規則別表第 1 掲載品目に掲げる着色料以外の化学的合成品たる着色料を含むものであってはならない。ただし、着色料が溶出または浸出して食品に混合するおそれがないように加工されている場合はこの限りではない。
ポリエチレン及びポリプロピレン樹脂*	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		過マンガン酸カリウム消費量	10 μ g/mL 以下
		蒸発残留物	30 μ g/mL 以下
ポリエチレンテレフタレート樹脂	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		過マンガン酸カリウム消費量	10 μ g/mL 以下
		アンチモン	0.05 μ g/mL 以下
		ゲルマニウム	0.1 μ g/mL 以下
	蒸発残留物	30 μ g/mL 以下	

* ポリエチレン単一の樹脂とポリプロピレン単一の樹脂も、同一の規格です。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

農産物の残留農薬検査結果(令和6年12月～令和7年2月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁*は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和6年12月～令和7年2月に医療局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが収去した国内産農産物の検査結果を報告します。

国内産農産物については、12月にかんしょ(さつまいも)及びさといも各3検体、にんじん2検体、トマト及びだいこんの根各1検体の計10検体、2月にさといも及びにんじん各3検体、かんしょ、だいこんの根、ばれいしょ及びほうれんそう各2検体、かぶの根1検体の計15検体、合計で25検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。ほうれんそう1検体から1項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものではありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

* 令和6年4月1日に、食品衛生基準行政は厚生労働省から消費者庁に移管されました。

表1 国内産農産物*の残留農薬検査結果 (令和6年12月～令和7年2月)

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
かぶの根	1	0			
かんしょ(さつまいも)	5	0			
さといも	6	0			
だいこんの根	3	0			
トマト	1	0			
にんじん	5	0			
ばれいしょ	2	0			
ほうれんそう	2	1	アセフェート	0.31	0.7

*検体 25 件中市内産 24 件、市外(茨城県)産かんしょ 1 件

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○	—	○	—	エトキサゾール	0.01	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	—	エンドリン	0.005	○	—	—	—
アセフェート	0.01	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	—	カルプロパミド	0.01	○	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	○	—	クミルロン	0.01	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○

表2 (続き)農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	フェノバルブ	0.01	○	○	○	○
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○
クロロクソン	0.01	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○
チアクロブリド	0.01	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○
チアトキサム	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	—	○	—
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	ベンコナゾール	0.01	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	ベンシクロン	0.01	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	○	—	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	—
トリフロキシストロピン	0.01	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○	—
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○
ビリダベン	0.01	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
ビリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	メラクロール	0.01	○	○	○	○
ビリミカーブ	0.01	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○
ビリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○	○	—
ビリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○
フィプロニル	0.002	○	○	○	○						

農産物の種類 A:トマト、にんじん、ほうれんそう B:かぶの根 C:かんしょ(さつまいも)、さといも、ばれいしょ
D:だいこんの根

○:実施、—:実施せず

* DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年2月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和7年2月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和7年2月に追加・更新した主な記事は、1件でした。

掲載月日	内容
2月14日	感染症に気をつけよう(2月号)

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード 感染症

<https://iryodashboard.city.yokohama.lg.jp/infectious/>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年2月）

《今月のトピックス》

- 百日咳の報告が急増しています。
- 海外からの輸入感染症の報告が増加しています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が多く発生しています。
- 感染性胃腸炎の報告が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2025年1月20日～2月23日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
腸管出血性大腸菌感染症	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6件
E型肝炎	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
デング熱	1件	水痘(入院例に限る)	2件
マラリア	1件	梅毒	25件
レジオネラ症	2件	播種性クリプトコックス症	1件
アメーバ赤痢	1件	百日咳	64件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件		

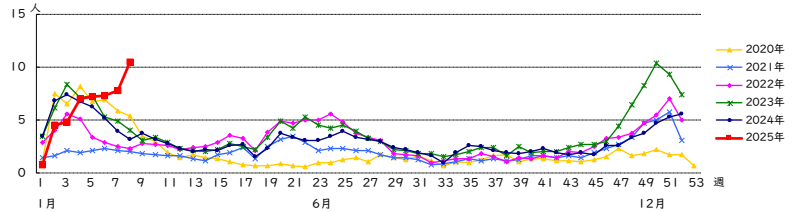
1. **細菌性赤痢**:60歳代で、菌種は sonnei(D群)です。海外(エジプト)での感染が疑われますが、感染経路等は不明です。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～40歳代で、O血清群はO157が1件、O152が1件、不明が2件です。いずれも感染経路等は不明です。
3. **E型肝炎**:30歳代～60歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
4. **デング熱**:20歳代で、海外(インドネシアまたは台湾)での蚊からの感染と推定されています。
5. **マラリア**:50歳代で、病型は熱帯熱マラリアです。海外(コンゴ民主共和国)での蚊からの感染と推定されています。
6. **レジオネラ症**:40歳代及び80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
7. **アメーバ赤痢**:60歳代、腸管アメーバ症です。感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
8. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～90歳代で、以前からの保菌と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:70歳代～80歳代で、血清群はA群2件、B群1件、G群2件です。創傷感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が1件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:いずれも20歳代で、感染経路は性的接触(同性間2件)と推定されています。
11. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴3回1件、無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定される報告が1件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
12. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴1回2件、無1件、不明6件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
13. **水痘(入院例に限る)**:30歳代及び50歳代(ワクチン接種歴1回1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
14. **梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期15件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者3件です。性的接触による感染と推定される報告が22件(異性間17件、詳細不明5件)、感染経路等不明が3件です。
15. **播種性クリプトコックス症**:70歳代で、感染経路は免疫不全によるものと推定されています。
16. **百日咳**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴5回2件、4回44件、3回2件、無4件、不明12件)で、家族内感染と推定される報告が14件、周囲の流行と推定される報告が10件、感染経路等不明の報告が40件です。
17. **薬剤耐性アシネトバクター感染症**:80歳代で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2025年第 4週	1月20日～1月26日
第 5週	1月27日～2月 2日
第 6週	2月 3日～2月 9日
第 7週	2月10日～2月16日
第 8週	2月17日～2月23日

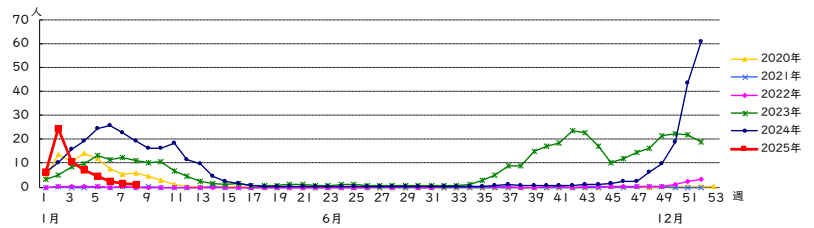
1 感染性胃腸炎

2025年第2週(1月6日～1月12日)以降増加しており、第8週は10.47です。



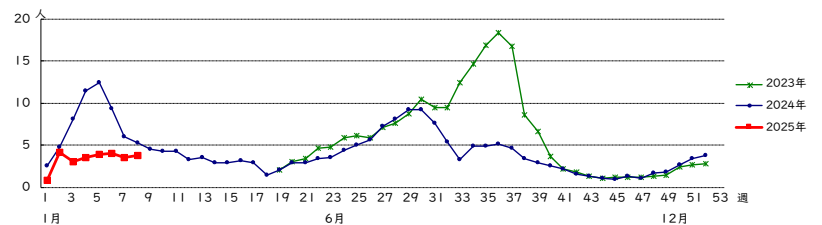
2 インフルエンザ

2024年10月下旬に流行期に入りました。第50週(12月9日～12月15日)に流行注意報の発令基準(10.00)を、第51週に43.33で流行警報の発令基準(30.00)を上回りました。第52週は60.52と急増しました。2025年第3週以降、減少傾向が続き、第4週に終息基準値(10.00)を下回りました。第8週は1.26です。



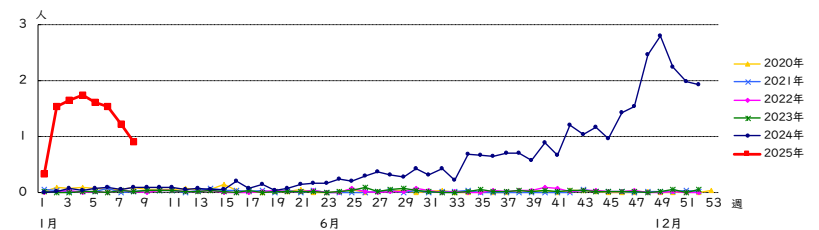
3 新型コロナウイルス感染症

2024年第48週(11月25日～12月1日)以降増加傾向に転じました。年末年始は定点医療機関の休診に伴い、流行の実態を正確に反映していないと考えられますが、2025年第3週以降、年末と同程度の報告数が続いています。第8週は3.75です。



4 伝染性紅斑

2024年第48週に流行警報発令基準値(2.00)を上回り、第49週(12月2日～12月9日)にピークを迎えました。2025年第2週以降も高い値で推移していましたが、減少傾向に転じています。第8週は0.89で、終息基準値(1.00)を下回りました。



5 性感染症(2025年1月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:15件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:13件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性:2件	淋菌感染症	男性:9件	女性:1件

6 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.50	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.25	0.25	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.25	0.00	0.00	0.75	0.00

7 基幹定点月報(2025年1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ(内科)定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っていません。

2025年第4週～第8週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点11件、基幹定点3件でした。

3月3日現在、表に示した各種ウイルスの分離22株と遺伝子10件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2025年第4週～第8週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	腸 炎
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	2 -		14 -	
インフルエンザウイルス AH3型			3 -	
インフルエンザウイルス B型(victoria系統)			1 -	
ヒトコロナウイルス OC43型	- 2			
ヒトコロナウイルス HKU1型		- 1		
パラインフルエンザ 3型	- 1			
アデノウイルス 1型		1 -		
アデノウイルス 5型	1 -			
アデノウイルス 41型				- 1
ライノウイルス	- 2			
RSウイルス	- 1			
ヒトメタニューモウイルス		- 2		
合 計	3 6	1 3	18 -	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2025 年第 4 週～第 8 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 6 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 6 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 5 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 4 件、侵襲性肺炎球菌感染症 1 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所から肝膿瘍の遺伝子検索 1 件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎 3 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025 年第 4 週～第 8 週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	6	O111 : H- VT1 (1) O152 : H7 VT2 (1) O157 : H7 VT2 (1) Og76 : Hg19 VT1 (1) Og150: Hg10 VT2 (1) OgN11 : H19 VT1 (1)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (5) <i>Haemophilus influenzae</i> a型 (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (1) A群溶血性レンサ球菌 T型検査中 (1) B群溶血性レンサ球菌 V型 (1) G群溶血性レンサ球菌 (2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2) <i>Escherichia coli</i> (1) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 19A (1)	
分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	肝膿瘍	1	穿刺液	<i>Klebsiella pneumoniae</i> 16SrRNA遺伝子陽性 (1)
小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	3	A群溶血性レンサ球菌 T4 陽性 (3)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】